

# 響灘ビオトープにおける市民参加型の 湿地・草原および生物保全活動

## 参加者が生物を守るヒーロー・ヒロイン！ 講座「絶滅の危機から生物を救え！～生物のすみか守り隊～」より

キーワード  
ビオトープ，湿地，市民参加，ネイチャーポジティブ，自然共生サイト

### 01 「響灘ビオトープ」とは About ～元廃棄物処分場が生き物の楽園に！～

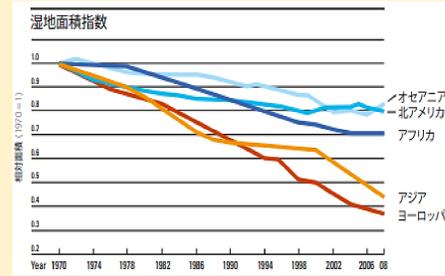


埋立直後  
(1980年代)

生物の楽園  
に变身！

- ▶ 北九州市響灘地区の廃棄物埋立跡において、湿地や草原など多様な環境が形成され、希少種を含む多様な生物が生息できるようになったことを受けて整備された、日本最大級の広さ41haの湿地・草地のビオトープ。2012年に開園。
- ▶ 市民がネイチャーポジティブを学びながら自然と触れ合える、自然環境学習の拠点として、国の「自然共生サイト」にも登録されている。

### 02 湿地・草地の現状 Background ～生き物の重要な住処の減少が続く！～



表出典：生物多様性条約テクニカルシリーズ  
No.78: Progress Towards the Aichi Biodiversity Targets より

- ▶ 地球全体において淡水資源の不足が顕著となりつつあり、また、二酸化炭素の蓄積や洪水の制御、生物多様性の喪失など、湿地の減少に伴う悪影響が顕在化している。
- ▶ WWFの「生きている地球指数」によれば、1970年から2020年の間に、淡水域に生息する生物の個体数は76%減少している。
- ▶ 同様に、草地の減少も続いている。

出典：ラムサール条約 ファクトシート

### 03 ネイチャーポジティブ+グリーンインフラで響灘ビオトープの湿地・草地を地域の人々で守る！ Plan ～生物調査・希少種保全・外来生物駆除など実体験を通して生き物の住処を守る『生物のすみか守り隊』を結成！～

- 響灘ビオトープにおける現状
- ▶ 湿地においては、抽水植物の繁茂により水面が減少し、草地においては、外来生物の増加により生物多様性の質が劣化する傾向が見られる。
  - ▶ これらの現象を防ぎ、湿地および草地を保全するためには、人為的かつ定期的な手入れを行うことが必要であり、これにより野生生物の住処も守る活動を行っている。
  - ▶ 広大な面積を有する響灘ビオトープの湿地と草地の管理においては、複数のステークホルダーが協力して取り組むことにより、適切な管理の継続が期待される。

対策



- ▶ 四季折々の景観が観察され、多様な生物の出現も確認されている。
- ▶ 保全活動は、生物の出現時期に合わせて継続的に行う必要がある。
- ▶ 2024年には、『生物のすみか守り隊』を結成し、年間を通じて定期的に活動を実施。
- ▶ 生物のすみか隊には、約40人の親子が参加し、共通体験を促進しながら保全活動を推進している。
- ▶ 活動を通じて、湿地および草地の多面的な機能の維持を図り、グリーンインフラとして寄与する。



### 04 生き物たちの砦になりたい！ 体験型の講座『生物のすみか守り隊』で親子隊員が活躍中！ Report ～日本最大級のビオトープでの教科書では学べない“本物の命”に触れる体験が生き物を守る一歩に～



ベッコウトンボをモチーフにした響灘ビオトープの公式キャラクター「ベッチ」

ミッションA  
野生生物のくらしをみつめよう！

ミッションB  
野生生物のすみかを守ろう！

ミッションC  
外来生物を駆除しよう！

ミッションD  
普段の生活も環境行動をしよう！

ミッションE  
活動を多くの人に伝えよう！

外来生物自体は悪いことをしていないが、持ち込んだのは人間、戻せるのも人間

生体そのものを見つけることは難しくても、巣などで生息が確認できる

野生生物の生息場所は、ビオトープ内だけでなく、園外ともつながっている

同じ内容のことも毎年継続的に行うことが対策になる

2024

春夏

2025

春夏

冬秋

冬秋

キシュウスズメノヒエ駆除

スキミリンゴガイ駆除

ウシガエル駆除

セイタカアワダチソウ駆除

放置竹林整備 (園外)

スキミリンゴガイ駆除

セイタカアワダチソウ駆除

スキミリンゴガイ

ウシガエル

クズ駆除

ベッコウトンボ頭数調査

ベッコウトンボ

コガタノゲンゴロウ

湿地の生物調査

コアジサシの砂礫地整備

カヤネズミ

シバナ

WoWキツネザルさん講演会 1年の活動ふりかえり

セッカ

ハチクマ

ハチクマ渡り観察 (園外)

カヤネズミ球巣調査

エコトーン再生

シバナ保全 (園外)

草原の野鳥の巣の調査

草地の生物調査

クズ駆除

### 05 Voice 参加親子の声

稜平さん (6年生)



最初は植物はあまり好きじゃなかったけど、カヤネズミが住んでいる草むらも、クズに覆われてしまっていて、その繁殖力のすごさに驚き、野生の生き物たちを守るためには、人がちゃんと守ることが必要だと考えました。生き物のすみかを守る活動は、暑い季節や寒い季節でもしなければならなくて、生き物を大切にすることは、簡単なことじゃないって実感しました。講座の中で、いろんな保全活動をやってみて、自然環境を守りたいって強い気持ちがないと続けられないんだなって、思いました。それから、小学校の屋外授業や地域の活動の中で、講座で知ったことや体験したことをみんなに伝えることもでき、すごく良い経験になっていると思います。

お母さま

この講座『生物のすみか守り隊』を通じて、子どもは学校の勉強にも役立つことをたくさん学んでいるみたいですし、普段の生活の中でも、ちょっと気になったことがあったら自分から調べてみる習慣がついたようです。それに、知識や経験をしっかりと他の人に伝えられるようになってきて、コミュニケーションの面でも成長していると感じています。